



ProQuest Ebook Central

～国内外のDDA導入事例を交えて～

2017年12月15日

国立大学図書館協会地区協会助成事業による研修会

プロクエスト日本支社 佐藤嘉能



What is ProQuest Ebook Central

ProQuest Ebook Centralは大手出版社や大学出版局を含む700社以上から出版しているコンテンツを提供する電子書籍のアグリゲーターサービスです。世界中の学術出版社はもちろん、特に大学出版局のコンテンツを収録する事にも注力。コンテンツは最大で100万冊以上の書籍がひとつのプラットフォームで検索、閲覧が可能。多彩な利用モデルとアクセスモデル（契約モデル）を利用機関のニーズに合った形で電子書籍を構築することを実現。



年間購読型

少ない予算で最大の費用対効果が見込める年間購読型。無制限アクセスで授業やあらゆる場面での利用が見込める。



買切型

1冊から購入可能。
書籍の利用用途によって同時アクセス数1, 3, 無制限等モデルを選択することが可能。



一時有料利用型

書籍を購入するのではなく、1日、7日などといった期間、有料で本を閲覧できるシステム。一時的なアクセスを得る事で、利用者満足を書籍購入価格以下の予算で利用できる。

ProQuest Ebook Business

ProQuest Ebook Centralの利用機関数（国内）

まさに発展途上!!



Why Ebook??

図書館側の背景

1. 書庫スペースの限界
2. 本の管理コスト増
3. 複数キャンパスでの効率的運用
4. 図書館の利用目的の変化
5. 英語による授業の増加への対応
(留学生の増加)



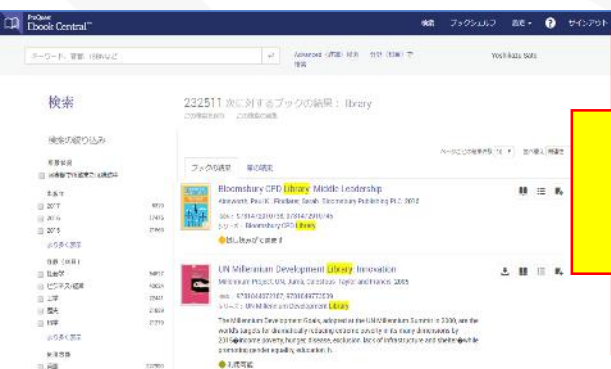
利用者側の背景

1. パソコン/タブレット/スマートフォンの普及
2. アクセス開通までの待ち時間がない
3. 見たい所だけを検索・閲覧できる
4. 本を持ち歩きたくない
5. 本を借りるのが面倒
6. コピペやコメント入力、ハイライトも出来る

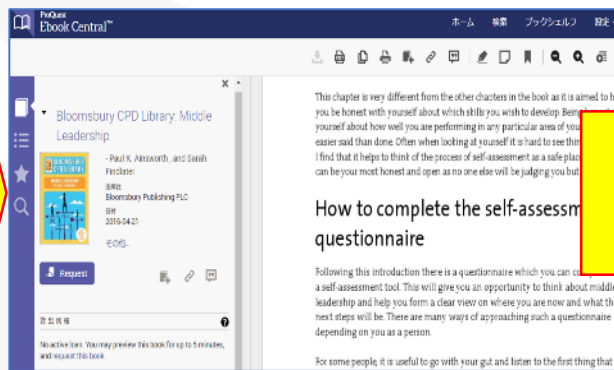
ProQuest Ebook Central Mediated DDA

Mediated Demand Driven Acquisition (以下Mediated DDA)とはリクエスト主導型DDAの電子書籍利用サービスの名称で、事前に**5分間**の試読が可能。試読後に研究や学習に必要な書籍の購入リクエストを同一プラットフォーム上で提出、管理者にて承認された場合、購入・閲覧いただけるサービスです。

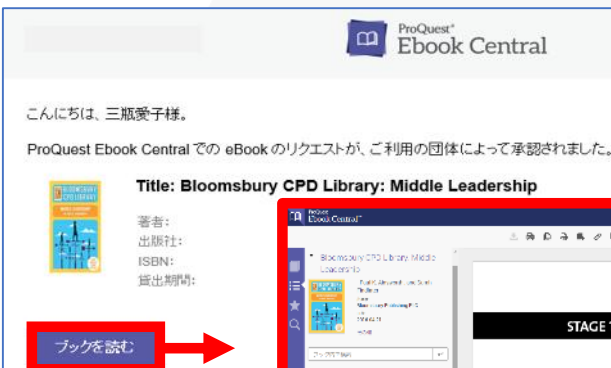
検索



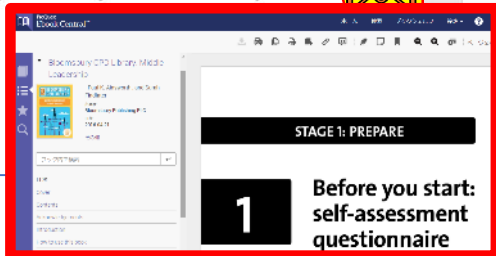
閲覧



リクエスト送信



リクエスト返信



リクエスト書籍選定



リクエスト受信

海外・国内の電子書籍市場（オーストラリア）

	オーストラリア
電子書籍浸透度	◎
DDA浸透度	◎
主流のDDAタイプ	自動購入
公開する書籍の選定	する
支払方法	デポジット

～世界の電子書籍導入をリードする電子大国～

- ・ 書籍予算の9割を電子に充当、電子で存在しない書籍のみ紙媒体で購入
- ・ トリガー発生と同時に自動購入となる従来のDDA
- ・ 公開書籍を注意深く選定、自動購入に値する書籍のみを公開（※）
- ・ 教科書をすべて電子書籍で提供する大学も出現

※公開書籍の選定と運用例：A大学の場合（国立総合大学）

- ・ 特定の出版社145社から出版された書籍を公開
- ・ 2010年以降に出版された比較的新しい書籍を公開
- ・ フィクション分野の書籍は除外
- ・ \$500以下の書籍を公開



- ・ 同一書籍3度目までのトリガー発生時には一時有料利用権（STL）での利用により一時的に開通
- ・ 書籍の価格により購入方法が変動する設定を採用
 - ＞\$300以下の書籍はSTLによる自動購入
 - ＞\$300以上の書籍は承認型へ移行
- ・ デポジット入金により運用

海外・国内のebook市場 (韓国)

	オーストラリア	韓国
電子書籍浸透度	◎	○
DDA浸透度	◎	△
主流のDDAタイプ	自動購入	自動購入／承認型
公開する書籍の選定	する	する
支払方法	デポジット	デポジット

～東アジア初のDDA導入国～

- ・ 電子書籍支持率が高い
- ・ DDA導入機関数は少ないものの導入は早かった
- ・ 自動購入と承認型を併用
- ・ 承認型でも公開書籍を注意深く選定（※）
- ・ 公開書籍をこまめに更新し、常により需要にマッチした書籍を用意することを重視

※公開書籍の選定と運用例：B大学の場合（私立総合大学）

- ・ 特定の手学術出版社、大学出版局、学会出版社から出版された書籍を公開
- ・ 2013年以降に出版された新しい書籍を公開
- ・ 英語の書籍を公開
- ・ \$200以下の書籍を公開
- ・ 大学図書館ですでに所蔵している紙媒体の洋書は除外



約3万冊を公開

- ・ トリガー発生により自動購入
- ・ デポジット入金により運用、枯渇したらその年度は終了
- ・ 近年では承認型での利用も増えてきている

海外・国内のebook市場（日本国内）

	オーストラリア	韓国	日本
電子書籍浸透度	◎	○	△
DDA浸透度	◎	△	○
主流のDDAタイプ	自動購入	自動購入／承認型	承認型
公開する書籍の選定	する	する	しない
支払方法	デポジット	デポジット	後請求

～いろいろな意味でユニーク！承認型DDAが大人気～

- ・ 電子書籍はここ数年でようやく浸透してきた
- ・ 昨年の承認型DDAリリースと同時に急速に導入が進んでいる
- ・ DDA導入全30機関で承認型を採用
- ・ ほぼ全機関でDDA対象の全書籍を公開、試読機能を最大限利用＝選書ツールとしての利用を意識
- ・ 機関ごとに多様な運用方法を採用（※）

※運用例

・ C大学の場合（国立総合大学）

- ＞承認型DDAを導入、リクエストを受け取る段階までシステムを使用
- ＞リクエストごとに購入を検討し発注は従来どおり代理店を通じて行う

・ D大学の場合（私立総合大学）

- ＞年間購読型と承認型の併用
- ＞OPACやディスカバリーサービスでの利用環境を整備→利用増→リピーター増

・ E大学の場合（私立単科大学）

- ＞通年の公開ではなく、春・秋の期間限定で利用者からリクエストを受付
- ＞リクエスト期間終了後に選定。リクエスト期間外は購入した書籍のみ公開



全対象書籍約83万冊を公開

What is ProQuest Ebook Central

利用者の声

図書館員

- 大手出版社以外の書籍のリクエストが多くびっくり
- 最低購入金額の設定がないのが安心
- ユーザーを待たせなくて良い
- 購入書籍がよく使われる
- アグリゲーターサービスのメリットが最大限活用できるサービス
- 選書ツールに最適
- 貸出、返却業務が不要
- 選書時間の軽減

利用者

- 試読出来る事でタイトル買いをしなくて済む
- 授業の準備の手間が軽減できた
- 特定の章やページの部分読みに適切
- 本当に試読だけで買わなくてもいいんですか？
- キャンパス外から夜中でも利用できるのがありがたい
- 返却期日がないのが良い
- 試読箇所制限がない。と違う

今日のテーマ：発展途上！実際どうなのEbook？

発展途上！

→ 間違いないでしょう

実際どうなの？

→ 前：書籍を購入する

今：書籍のアクセス権を入手する

→ 前：DDAの運用など未知の世界。

今：Mediatedでコントロールする事ができるなら。。

→ 前：書籍を読む

今：書籍を使う

→ 前：紙媒体でないといけない

今：電子の方があれば便利

これから
どうなの？

(将来的展望)

→ 日本語電子書籍の発展のスピードが重要

→ 紙と電子の予算配分のシフトチェンジが重要

→ 試読（書籍中身を確認して）からの電子書籍購入が主流になる

→ 紙や電子書籍の区別することなく購入できるサービスが必要

これから
どうなの
ProQuest？

- 日本語コンテンツを搭載（2018年リリース予定）
- OASIS(冊子・電子書籍ウェブ注文システム)の充実
- Mediated DDAを国内に広めるプロモーション活動

Thank
you



ご清聴ありがとうございました。

